

法人名：

十和田ホテル 株式会社

設立年月日 平成9年12月5日

1 法人の概要													
代表者職氏名	代表取締役 猿田 強		資本金	250,000千円		県出資等額及び比率	100,000千円 (40.0%)		所管部課名	観光文化スポーツ部観光戦略課			
設立目的	歴史的・文化的価値の高い十和田ホテルを後世に伝えとともに、同ホテルの効率的な運営を図り、もって十和田地域の観光の振興に寄与することを目的に県等の出資により平成9年12月に設置。												
事業概要	十和田ホテルの諸施設の管理運営業務												
関連法令、県計画	なし												
役員数 (R5.7.1現在)	理事		監査役		評議員		計		職員数 (R5.4.1現在)	正職員	出向職員	臨時・嘱託	計
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤		2		7	9
	1	6		1			1	7	※役員と職員を兼ねている者の人数は、役員と職員の両方に計上し、職員数には括弧(内数)で表示。				

2 法人の行動計画(令和4～7年度)									
県関与のあり方	縮小・廃止		経営状況	健全化が必要		取組の方向性	・累積赤字の解消		
目標	継続的な黒字経営を達成すべく、人材の確保を図るとともに、国内外からのお客様に、料理・サービス・施設のより高い品質を提供することで、顧客満足度の向上を図り、売上の最大化、費用構造改革と生産性向上を推進していく。 【目標】当期純利益(累積赤字削減額) 各年度3,500千円								
取組	<ul style="list-style-type: none"> ○新型コロナウイルス感染防止策を継続しながら新たな旅行スタイルに対応した宿泊プランの造成を図る。 【目標】宿泊プランの造成2プラン→7プラン ○県内容のリピーター率向上に向けた取組を行う。 ○直販比率を上げ限界利益率を改善する。 【目標】直販比率R元年度比+28.2Pt 限界利益率R元年度比+2.5Pt ○マルチタスク化推進により労務費を削減し労働生産性向上を図る。 ○固定費を削減し損益分岐点売上高を引き下げる。 【目標】固定費R元年度比▲20百万円 損益分岐点売上R元年度比▲40百万円 								

3 財務									
①損益計算書 (単位:千円)			②貸借対照表 (単位:千円)			<主な経営指標>			
区分	令和3年度	令和4年度	区分	令和3年度	令和4年度	項目	令和3年度	令和4年度	増減※
売上高	175,715	174,541	流動資産	119,946	94,932	経常収支比率 (経常収益÷経常費用)	95.7%	89.2%	△6.5
売上原価	160,436	169,168	固定資産	23,191	22,973	流動比率 (流動資産÷流動負債)	994.8%	1344.1%	+349.3
売上総利益	15,279	5,373	資産計	143,137	117,905	自己資本比率 (純資産計÷負債・純資産計)	61.1%	56.0%	△5.1
販売費及び一般管理費	27,579	26,802	流動負債	12,057	7,063	有利子負債比率 (有利子負債÷純資産計)			
人件費(売上原価含む)	71,227	67,637	短期借入金			※端数処理の関係で増減が一致しないことがある。			
営業利益(損失)	△12,300	△21,429	固定負債	43,600	44,800	<退職給与引当状況(単位:千円)>			
営業外収益	4,261	292	長期借入金	40,000	40,000	要支給額	引当額	引当率(%)	
営業外費用	31		負債計	55,657	51,863	8,701	4,800	55.2%	
経常利益(損失)	△8,070	△21,137	資本金	250,000	250,000	※中小企業退職共済制度へ加入している。			
特別利益	9,216		利益剰余金等	△162,521	△183,958				
特別損失			純資産計	87,479	66,042				
法人税、住民税・事業税	781	301	負債・純資産計	143,136	117,905				
当期純利益(損失)	365	△21,438	※端数処理の関係で合計が一致しない場合がある。						
③県の財政的関与の状況(事業費補助・委託を除く) (単位:千円)									
区分	令和3年度	令和4年度	支出目的等						
年間支出									
年度末残高									

法人名：

十和田ホテル 株式会社

I 自己評価

1 行動計画における目標及び取組の達成状況	2 経営状況
<p>【令和4年度実績】</p> <p>○当期純利益：▲21,438千円（差異▲24,938千円）</p> <p>○宿泊プラン：6プラン販売（差異▲1プラン）</p> <p>○直販比率R元年度比：+24.0pt（差異▲4.2pt）</p> <p>○限界利益率R元年度比：+3.8pt（差異+1.3pt）</p> <p>○固定費R元年度比：▲15百万円（差異▲5百万円）</p> <p>※水道光熱費R元年度比：+6百万円</p> <p>○損益分岐点売上R元年度比：▲36百万円（差異▲4百万円）</p> <p>※水道光熱費等増加除く：▲42百万円</p>	<p>【令和4年度実績】</p> <p>○当期純利益は、21,438千円の赤字。</p> <p>○経常利益は、21,137千円の赤字。</p> <p>○営業利益は、21,429千円の赤字。</p> <p>○売上高は、174,541千円により前年比1,174千円の減。</p>
<p>【自己評価】</p> <p>○新たな宿泊プランを造成し、リピーター率向上に向けたSNSやDMなどの営業活動に取り組んだ。また、職員のマルチタスク化に積極的に取り組み労務費の削減を図った。</p> <p>○水道光熱費の高騰による増加分の影響があったが、直販比率を上げ限界利益率の改善に努めた結果、ほぼ計画通りに推移した。ただし、目標である当期純利益3,500千円の黒字を大きく下回り目標達成には至らなかった。</p>	<p>【自己評価】</p> <p>○すべてにおいて大幅な赤字になったが、その要因として高単価商品が一番販売できる8月に大雨の影響で約300名がキャンセルとなったほか、それ以降の予約状況についても影響があったことが大きい。</p> <p>○重油、電気、ガスの高騰で水道光熱費の増加も大きい。</p>
評価	評価
C	C

II 所管課評価

1 行動計画における目標及び取組の達成状況	2 経営状況
<p>○新たな旅行スタイルに対応した宿泊プランの造成を図り、県内客のリピーター率向上に向けた営業活動等の取組を行っている。また、マルチタスク化を推進し労務費削減による労働生産性向上を図っている。</p> <p>○顧客満足度指数は高水準を維持しているものの、新型コロナウイルス感染症の影響で宿泊人数及び売上高は目標を下回る結果となり、いずれも目標値の8割に到達しなかった。</p>	<p>○原油価格高騰等の影響や繁忙期に大雨被害による予約キャンセルが相次いだことにより当期純損失を計上した。依然として繰越損失金があることから、収支改善に向けた更なる取組を行っていく必要がある。</p>
評価	評価
C	C

III 委員会評価

総合評価	法人全体の取組・運営状況に関するコメント
C	<p>○原油価格高騰等の影響や繁忙期の大雨被害による予約キャンセル等を考慮しても、令和3年度に引き続き、経常利益及び営業利益の赤字が継続しており、経営改善に向けた新たな取組が必要である。</p>

【委員からの提言】

○歴史的建造物に宿泊できる点や好ロケーションである点からも、利用者評価が高い施設であり、今後、クオリティを維持していくためにも、県外や海外の富裕層をターゲットとするなど、高級路線を徹底することも検討すべきと考える。

○ホテルは宿泊や食事だけでなく、そこでどのように過ごすかが重要であることから、過ごし方の提案についてもPRしていく必要がある。

委員会評価を踏まえた対応方針

法人の対応方針	所管課の対応方針
<p>○引き続き、高付加価値商品の販売を推進し収益性の向上を図る。また、人手不足が顕著であることから、外国人材の活用やマルチタスク化、システム化等により生産性向上を推進し経営改善に取り組む。</p> <p>○直販比率を上げ利益率改善のために、新聞・テレビ・ホームページ等での告知により、直予約の多い秋田県民の利用促進を図る。</p> <p>○近隣のサップやカヤック、トレッキング等体験型施設を含めた関係機関と連携し若年層の取り込みを図る。</p>	<p>○光熱費等の高上がりの状況が続いていることから、経費の節減や業務の効率化を促す。</p> <p>○コロナ禍で落ち込んだ利用者の回復を図るため、高級路線を徹底した付加価値の高い宿泊施設として、県外や海外からの誘客促進を法人と連携して取り組んでいく。</p> <p>○小坂町及び近隣の施設等との連携を促し、十和田湖エリアの観光の更なる活性化を図っていく。</p>